

政宗の一日

仙台市博物館 学芸企画室 明石 治郎

第12回

晩年の伊達政宗の側近く、小姓として仕えた木村宇右衛門が書き留めた政宗の言行録（「木村宇右衛門覚書」）には、殿様・政宗の日常の一日が記されています。詳細な記述ですので、概略をご紹介します。紹介したいと思います。

起床から就寝まで

政宗は、就寝前に寝ずの番の者に起床時刻を告げて、朝に起こされました。たいていは午前四時か五時起きでしたが、寝足りなければ、睡眠時間を延長しています。

起床後、たばこを三服から五服吸ったのち、小袖を着て、「奥」の寝所から公的な場である「表」へ向かいます。表に至ると、一時間から二時間ほど「雪隠」にこもります。「雪隠」の中で公私の書状から猷立などまで自筆で物を書いたようです。

朝の行水ののちに「御座の間」に出て、家老から小姓までの政務に関する上申に耳を傾けたのち、ようやく朝食です。陪席者（相伴衆）は、侍衆のほか、医者・儒者・歌道など各方面の家臣から選ばれました。食事ののちに酒・肴、茶請

けと進み、茶道衆の立てた茶を飲んで、朝食はお開きです。朝食時、また夕食時にも喫煙しています。

その後、また「御座の間」に出て、命令を下したり、家老たちの意見を聞いたりと政務を行います。八つ（午後二時）を知らせる鐘で終了しました。

それから、「閑所（雪隠）」へ再びこもり、明朝の相伴衆を自筆で書き立てなどし、夕の行水ののちに奥に入ります。朝に「雪隠」で書き立てた相伴衆とともに過ごす夕食が喫茶で終わると寝所へ入ります。就寝前にたばこを吸い、明朝の起床時刻を指示して就寝しています。

さて、ここで見た政宗の一日は、晩年の六十歳代のそれかとも考えられますが、相伴衆の書き立てについては、政宗四十歳代後半頃までさかのぼる可能性のある実物資料が残されています。（写真）。

政宗の「雪隠」

政宗の「雪隠」は二畳ほどの広さで、三段の違い棚があり、上段には紙と硯、中段には香炉や火鉢、下段には毛抜き

やはさみが置かれていました。出入口には十五センチメートル四方の覆い付きの窓を設け、そこを通して小姓たちとやりとりをしたのです。

「雪隠」は「閑所」とも言い換えられています。が、いずれもトイレを意味する言葉です。「雪隠」に文字どおりトイレとしての機能があったかどうかはともかく、政宗が心静かに思索し、アイデアを生み出すのに、この狭く閉じられた空間が必要とされたようです。



伊達政宗自筆の相伴衆の書き立て 個人蔵

仙台市史 全32巻

原始から平成元年までの仙台の歴史をわかりやすく紹介！

「通史編」のほか、古代から現代までの歴史資料で構成される「資料編」、特定のテーマを詳しく掘り下げた「特別編」、「年表・索引」があります。



ピックアップ紹介

資料編11～13 伊達政宗文書2～4

A5判／各巻4,191円(税込)

伊達政宗筆の文書を、年代順に4巻※に分けて収録しています。各巻約1,000点に及びぶ翻刻文のほか、一部資料の写真図版、花押・印章一覧も掲載しています。

※『伊達政宗文書1』は好評につき完売しました。



『伊達政宗文書2』（見開きは別冊。写真図版等を収録）



既刊紹介や購入方法は博物館ホームページでご案内しています。

仙台市博物館 SENDAI CITY MUSEUM

▶博物館ホームページ
▶博物館ツイッター @sendai_shihaku

仙台市博物館 検索

▶お問い合わせ 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡)
TEL:022-225-3074 8:30-17:15 ※土・日・祝休日を除く

※当館は現在、大規模改修工事のため休館しています。令和6年4月に再開予定です。